

令和4年度 事業報告

○生活保護授産事業

生活保護授産事業では、何らかの事情により通所が困難な利用者に対しても家庭内授産の提供を行うなど、より柔軟性のある取り組みが行えた。本人の働く意欲の向上、地域とのつながりなど問題解決にも繋がった。また、ひきこもりやアルコール依存症、制度の狭間で課題を抱える方々に対しても、福祉事務所の職員、支援員と連携を図りながら、自宅訪問や面談など直接的な働きかけを行うことで利用者の増加にも繋がった。地域のセーフティーネットとして公益的な取り組みも組み合わせながら、利用者の作業訓練や生活指導など円滑に支援することができた。

また、機能強化促進事業の取り組みとして、今年度も利用者のビジネスマナー研修を開催し、基本的マナーや社会性などについて学習した。

○就労継続支援B型事業

コロナ禍で、利用者や職員の日常、事業所の生産活動などに大なり小なり影響はあったものの「新たな日常」として、今できることに全力で取り組む、何事にもトライしながら楽しく取り組むといったスタイルが「わーくる」の風土としても浸透した。「楽しく働く」といったスタンスは「健康で豊かに」といったバランスにも直結し、コロナ禍でも比較的安定した一年を過ごすことができた。

就労継続支援B型事業の生産活動では、平均工賃額がさらに昨年度を5,232円上回る42,030円という結果となった。コロナ禍のなか、県の平均工賃額においてもベスト1位2位を競えるだけの成果である。高工賃の実現は利用者の自己肯定感の向上、やりがいにも繋がった。

また、令和4年度開所となった「わーくるぷらす」弁当和来の運営も順調に推移し、生産活動の業績も安定スタートとなった。HACCPに基づく衛生管理の徹底や店舗販売における実践、POSレジ導入、新たな環境でそこに携わる職員は底知れず大変な年となったが、その分職員のチームワークやりがいにも繋がる年となった。成果として新たな取引先やチャンスにも恵まれ実りの多い年となった。

○生活訓練事業

生活訓練事業では、日中活動のプログラムをさらに充実させるなどメリハリある支援を心掛けた。活動内容やプログラムに共感する利用者やご家族、支援関係者も多く利用希望者も増えている。

生活訓練事業の役割として、利用者の居場所や居心地を追求、インクルーシブ(包括的)な活動を継続的に行ってきた。SSTプログラムやロールプレイングなど実践的に社会性などを学ぶ機会を増やし、利用者一人ひとりが自信を持って社会参加できるよう支援

を行った。作業訓練にも力を入れ有限である2年後を見据え、内職作業や施設外就労などのプログラムも実践的に行ってきた。

○相談支援事業(特定相談支援事業・一般相談支援事業)

相談支援センターやぶきでは、障がい福祉サービスを総合的に利用できるよう、基本姿勢に基づき初回面談やアセスメント、計画相談やモニタリング等を行った。受け持ち相談件数178件と多いがその煩雑な業務とは相反してサービス単価が極めて低いのも今日の課題である。しかし、地域で必要とされる相談支援事業所のひとつとして公益的な取り組みにも力を入れながら、新規の受け入れにも迅速に対応し柔軟性のある業務を行うことができた。一般相談支援事業では地域移行支援や地域定着支援を行い、利用者が住み慣れた地域で当たり前の暮らしができるよう、24時間緊急時サポート体制などの対応を行ってきた。

中島村からの委託相談では、対象者のサービス調整や年金受給のサポートを行った。また、近隣市町村及び地域の関係機関との連携を図り、各種会議や研修への参加も行い資質向上に努めた。

重点実施事項

① 人材育成

職員の資質向上を図るため、外部講師を招きチームビルディング研修、人材育成研修などを行った。また、月に一度職員間でグループスーパービジョンを開催、チームで利用者支援について勉強会を行った。コロナ禍でもより多くの研修機会、スキルアップができる機会を提供することができた。

※グループスーパービジョンとは、支援をしていく中で「困ったな…」「どうしたら良いか…」などを、支援者が集まり一緒に意見出しを行いながら、良い解決策や対応方法などを検討していく手法のこと。

② リスクマネジメント

今後起こりうるリスク等に備え、事業継続計画(BCP)の作成や、事業の継続や復旧を図るための計画、手順書等(マニュアル)の作成、整備を行った。(現在も整備中)

また、事故発生時の対応や安全確保についても迅速かつ誠実な行動が取れるよう、万が一に備えて、防災・防犯管理委員会と一緒に企画等を行い、定期的に災害時を想定した避難訓練を実施することができた。

6S活動の推進や働く環境の見直しも定期的に声掛けやポスター掲示をするなど、必要なものは揃える、要らないものは取捨選択をしながら整理整頓に努めることができた。

③ 委員会活動

職員が各委員会に分かれて一年間に渡り施設運営に役立つ活動を行った。反省点としては時間や余裕の関係で班によっては活動内容に偏りが見られた。施設運営に参加する機会が出来たことは、職員の主体性や組織の活性化にもつながり改善活動となった。